

(電子メール施行)  
農技第1169号  
令和2年7月21日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第3号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	平年並	平年並
	紋枯病	平年並	平年並
	縞葉枯病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	<b>やや多</b>	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	セジロウンカ	<b>やや多</b>	平年並
	トビイロウンカ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	<b>やや多</b>	平年並
	イネツトムシ	<b>やや多</b>	平年並
	コブノメイガ	<b>やや多</b>	平年並
	フタオビコヤガ	平年並	やや少
ナシ	黒斑病	平年並	平年並
	黒星病	やや少	やや少
	シンクイムシ類	平年並	平年並
	ハマキムシ類	平年並	平年並
	ハダニ類	<b>やや多</b>	平年並
	カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
野菜共通	ハスモンヨトウ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	シロイチモジヨトウ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
果樹共通	果樹カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>

\* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月18日から8月17日までの天候見通し)

令和2年7月16日  
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

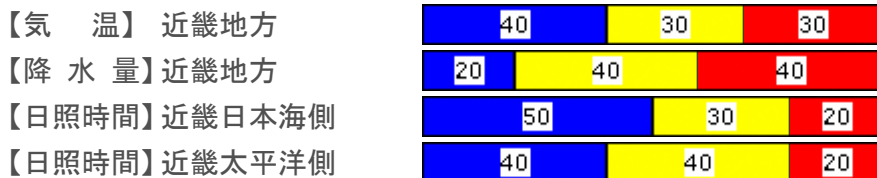
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で少ない確率50%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

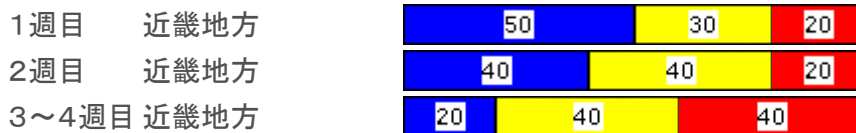
週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

### イネ

#### 1 【いもち病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 6月下旬の現地調査では発病圃場率<sup>ほじょう</sup>6.6% (過去7カ年平均6.9%)と平年並の発生が確認されている。7月上旬の予察圃場では発病株率8.0% (平年値2.2%)の発病を確認しているが、その発病程度は低い。今後の1か月予報によると、降水量は平年並または多い、日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並または少ないと予想されている。気温は平年並とされており、発生は平年並で推移すると予想される。

イ 6月上旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによるいもち病の感染好適日の情報を提供しているので参考にすること。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)

#### 2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察圃場では発病を確認していないが、現地調査ではわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、発生は平年並で推移すると予想される。

#### 3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察圃場では発生を確認していないが、現地調査ではわずかに発生が確認されている。5月下旬～6月上旬にコムギから採集したヒメトビウンカ第1世代虫の本病ウイルス保毒虫率は、平均1.8%と昨年(1.6%)とほぼ同程度であったが、広域で保毒虫が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの増殖が進み、本病の発生は平年並になると予想される。

- (3) その他

今年度の第1世代虫(コムギ採集個体)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページ

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)を参照する。

#### 4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 予察圃場における7月上旬のすくい取り調査(10回振り)では、加西市で成虫1頭(平年値2.4頭)であり、朝来市で成虫0.5頭(平年値1.1頭)、幼虫0.5頭(平年値2.6頭)であったが、現地調査では広い地域で発生が確認されており、発生圃場率15.6%(過去7カ年平均12.3%、すくい取り 10回振り)であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進むと考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種はイネ縞葉枯病を媒介する。イネ縞葉枯病の発病が目立つ圃場ではウイルス保毒虫が増加し、本年及び翌年の多発につながるおそれがあるので注意する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

#### 5 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯では、6月～7月2半旬までの合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で2頭(平年値7.3頭)、南あわじ市(淡路農技内)で14頭(同35.9頭)、朝来市(北部農技内)で0頭(同1.5頭)であった。

イ 6月下旬の現地調査では成・幼虫数は0.1頭/10回振り(過去7カ年平均0.4頭)と、やや少ないながら発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、平年並の発生になると予想される。

#### 6 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、6月～7月2半旬までの合計誘殺数は、加西市で2頭(平年値2.6頭)、南あわじ市で3頭(同16.1頭)、朝来市で2頭(同1.4頭)であった。

イ 6月下旬の現地調査では成・幼虫数は0.1頭/10回振り(過去7カ年平均0.2頭)及び0.1頭/10株払い落とし(同0.1頭)と、平年並の発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することによって、通常夏季に増殖する特性をもつ本種の密度は高くなり、発生はやや多くなると予想される。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種は海外飛来性であり、7月下旬から8月上旬に圃場での発生状況をよく観察

すること。防除の目安は、幼虫で株当たり5～15頭である。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

## 7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯への飛来はまだ確認されていないが、6月下旬の現地調査では飛来虫と思われる成虫が確認されている。

イ 本種はセジロウンカと同時に広域に飛来している可能性がある。今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進むと考えられるので注意すること。

## 8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、6月以降誘殺が続いており、加西市での7月1半旬の斑点米カメムシ類の誘殺数は27頭（平年値63.3頭）であった。

イ 7月上旬の予察圃場（朝来市）ではすくい取り調査 0.5頭/10回振り（平年値0.5頭）と発生が認められている。

ウ 6月下旬の現地調査では、特に除草が不十分な畦畔で発生が認められている。

エ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、斑点米カメムシ類の活動が高まるとともに増殖が進み、発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所である圃場周辺（畦畔等）の除草を行い生息密度の低下を図ること。ただし出穂直前と出穂後の畦畔除草は水田へのカメムシ類の侵入を助長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。散布に当たってはカメムシ類の生息場所全体に届くよう散布すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

## 9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察圃場において発生は確認されていないが、現地調査では、一部

の地域で発生が認められている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本種が葉を綴ったツトが散見されたら、薬剤散布することが望ましい。一般に防除適期は7月下旬～8月上旬である。

イ 薬剤散布に当たっては、本種の生息場所全体に届くよう散布すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

## 10 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯への成虫の飛来、および7月上旬の予察圃場での幼虫の発生は確認されていないが、現地調査では例年より早い時期からカスリ状の被害葉の発生が確認されている。

イ 今後1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 幼虫によるカスリ状の食害痕に注意すること。防除の目安は8月上旬の上位2葉の食害葉率が20%以上であり、一般に防除適期は8月中・下旬である。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

## 11 【フタオビコヤガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察圃場において発生は確認されていない。現地調査でも一部の地域での発生にとどまっている。

イ 梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、今後イネの状態は生育に伴い本種の加害に適さなくなるが、発生は続くと考えられる。

## ナシ

### 1 【黒斑病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の朝来市(北部農技)の調査及び現地調査(県北部)では、短果枝の発病葉率3.9%（過去10年の平年値7.3%）、発育枝の発病葉率5.9%（同平年値2.3%）

と、発生量は平年並となっている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、発生量は平年並で推移すると予想される。

## 2 【黒星病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の朝来市（北部農技）の調査及び現地調査（県北部）では発病は認められなかった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、やや少ない発生で推移すると予想される。

## 3 【シンクイムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 6月～7月2半旬までのフェロモントラップ（ナシヒメシンクイ）の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）では0.7頭（過去4年平均20.0頭）、朝来市（北部農技内）では22.4頭（過去2年平均10.3頭）であり、地域差が見られたが全体としては平年並の発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、発生は現状で推移すると考えられる。

## 4 【ハマキムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 加西市のフェロモントラップでは6月～7月2半旬までに平年並の誘殺がみられている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並とされており、発生は現状で推移すると考えられる。

## 5 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の朝来市（北部農技）の調査及び現地調査（県北部）では、寄生葉率32.5%（過去5年の平年値21.7%）と平年並みの発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並とされている。梅雨明けを迎えて気温が上昇して、ハダニ類の増殖に好適条件となることから、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 早期発見に努め、早期の防除を実施する。

イ 農薬散布時は、薬液が茎葉に十分かかるように不要な徒長枝を剪去し、ていねいに防除する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

## 6 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生の多い年）に該当する。6月～7月2半旬までのフェロモントラップでの合計誘殺数は、加西市で474頭（表年の過去5年分平均値237.3頭）、朝来市で352頭（表年の過去3年分平均値197.7頭）と、通常の表年よりやや多い状況が続いている。

イ 8月以降、次世代成虫の出現期を迎え、引き続きやや多い発生で推移することが予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 有袋栽培の圃場における収穫直前の袋除去時にの被害に合いやすいので注意すること。また、有袋の状態でも、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意する。

イ 飛来状況は地域や園地で異なるため、定期的に園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

## 野菜共通

### 1 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）と南あわじ市（淡路農技内）に設置されているフェロモントラップにおいて、6月上旬と7月上旬に成虫誘殺数が急増し、平年より多い状態が続いている。今後、圃場で例年より早く本種の発生が多くなるおそれがある。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、本種の増殖に好適な条件になり、野菜類での被害の発生に注意が必要である。

ウ 本種の発生状況の詳細については、令和2年度病害虫発生予察防除情報第1号（令和2年7月21日付け）を参考にすること（HPに掲載）。

(3) 防除上の留意点

ア ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。



- イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。
- ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。  
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）  
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 2 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 加西市(農技センター内)と南あわじ市(淡路農技内)に設置されているフェロモントラップにおいて、6月上旬と7月上旬に成虫誘殺数が急増し、平年より多い状態が続いている。今後、圃場で例年より早く本種の発生が多くなるおそれがあるので注意が必要である。
  - イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並とされており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、発生はやや多く推移すると予想される。
  - ウ 本種の発生状況の詳細については、令和2年度病害虫発生予察防除情報第1号(令和2年7月21日付け)を参考にすること(HPに掲載)。
- (3) 防除上の留意点
  - ア 本種の加害植物は、キャベツ、ピーマン、ナス、レタスをはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。
  - イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。
  - ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。  
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 果樹共通

### 1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 果樹を加害するカメムシ類については、本年5月28日付けで病害虫発生予察注意報第1号を発表したところである(HPに掲載)。  
加西市(農技センター内)及び朝来市(北部農技内)に設置しているフェロモントラップでは、ナシのカメムシ類の項で述べたとおり、依然として誘殺数の多い状況が続いている。
  - イ 予察灯におけるチャバネアオカメムシの6月～7月2半旬までの合計誘殺数は、加西市では18頭(表年過去5年分平均値10.4頭)、朝来市では107頭(表年過去5年分平均値59.6頭)である。この他にもツヤアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺も平年よりやや多くみられている。
  - ウ 8月以降は次世代成虫の出現期を迎えることから、前述のナシの他、カキ、ブド

ウ等の果実への加害が懸念される。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>